

平成 25 年度 ISO/TC46/SC9 国内委員会 第 2 回委員会
議事録

1. 日時：平成 26 年 1 月 20 日(月)10:00~11:30
2. 場所：文京区 区民センター(3 階 会議室 D)
3. 出席者：

| | | |
|-----|-------|--------------------------|
| 委員長 | 菅野 育子 | 愛知淑徳大学 (SC9 リーダ) |
| 委員 | 柴田 洋子 | 国立国会図書館電子情報部 (SC9 リーダ補佐) |
| | 原田 智子 | 鶴見大学 都合により、途中退席 |
| | 木俣 洋一 | 一般社団法人日本出版インフラセンター |
| | 追川 正人 | 一般社団法人日本音楽著作権協会 |
| | 秋元 良仁 | 凸版印刷株式会社 |
| | 駒崎 武一 | 一般社団法人日本映像ソフト協会 |
| 事務局 | 光富 健一 | 一般社団法人情報科学技術協会 |

(敬称略・順不同)
4. 配布資料：
 - (資料 1-1) 2013 年度 ISO/TC46 投票済み案件と投票審議案件(2014 年 1 月 16 日現在)
 - (資料 1-2) 投票案件「N718」及び「N719」について
 - (資料 1-3) 投票審議資料
 - (資料 1-4) Systematic Review 投票(定期見直し)の質問と回答
 - (資料 2) 国際図書館資料識別子(仮称)の検討について
 - (資料 3) NP 投票(新規業務項目提案)の質問と回答
 - (資料 4) 2014 年 ISO/TC46 ワシントン総会(申込要項等)
 - (資料 5) ISNI データベース画面例
5. 議事：

議題に入る前に、第 1 回委員会(平成 25 年 7 月 19 日開催)の議事録について、異議がないことを確認した。

 - 1) 平成 25 年度 ISO/TC46/SC9 投票済み案件と投票審議案件について 菅野委員長より、資料 1-1(事務局作成)にそって、平成 25 年度の SC9 投票済み案件(2 件)と投票審議案件(5 件)について説明及び報告があった。主な内容は以下の通り。
 - ・ N716 (ISO 2138 ISBN の改定)日本からの委員がエキスパート登録済みであることを確認。来月開催予定の電話会議の詳細に

については未定。

- ・ N719 (ISO 3901 ISRC の改定) 資料 1-2 参照 検討課題 2 点(一義性の保証と利用促進のためのデータベース公開)に対応する改定となるため、国内 RA である日本レコード協会として「賛成」投票済。
 - ・ ISO/DIS 17316 ISLI 資料 1-3 「案件 1」参照 同種メディア間のリンク(底本と派生本等)も対象になるのか要確認。異業種間の異なるメディア間のリンクというよりは、利用の立場(音楽教材等)から作られた識別子と思われる。国内での具体的な必要性が現時点では想定できないが、反対する理由もないため、「賛成」に投票する。
 - ・ ISO 999:1996(Ed 2, vers 3)・ISO 5963:1985 (vers 4)の定期見直し 資料 1-3「案件 2」「案件 3」参照
主題分析の方法論に関する規格。索引作業に必要なため、「賛成」(承認)する。
 - ・ ISO 25706-1:2002 (vers 2) ISAN の定期見直し 資料 1-3 「案件 4」参照
「賛成」投票する。国内状況に関する回答は、「2-1 No」「2-2 Yes」「2-3 No」となり、いずれもコメント不要である。(2/18 駒崎委員回答確認済)
 - ・ ISO 21407:2009 ISTC の定期見直し 映画のシナリオや小説原稿等文字で表現された作品(Work)を対象とした識別子。国内の必要性を検討するため、平成 26 年度第 1 回委員会で脚本アーカイブの現状等について関係者に報告してもらう予定。報告者の選定にあたり、関連委員から関係業界に連絡していただく。
 - ・ 投票審議案件の報告資料用フォーマットについて
今後も資料 1-3 の形式をベースに、新規提案、定期見直し等の各投票内容にあわせたフォーマットを維持する。なお、定期見直しの登録画面については、資料 1-4(事務局作成)参照のこと。
- 2) 国際図書館資料識別子(International Library Item Identifier)(仮)の国際提案について
資料 2 参照
担当委員による識別子の概要説明の後、菅野委員長が以下について報告した。
- ・ 5 月の総会でのプレゼンテーションに向けた WG が発足し、昨年 12 月に第 1 回会議が開催された。SC9 からも委員が参加している。第 2 回は 2 月下旬から 3 月上旬頃開催予定。
 - ・ 2 月に韓国及びワシントン DC の SC9 関係者を訪問し、事前に説明等を行う予定。
 - ・ 5 月の総会で提案するには、SC9 国内委員会の承認が必要である。そのため、質問や提

案事項等をメールで募りたい。

主な質疑応答

- ・ 既存の付与体系を組み合わせた識別子となるのか。また、図書館以外にも対象範囲は拡大可能なのでは？
認識の通りである。新たな登録機関(RA)が不要である点が従来と異なり、現実的である。また、対象範囲の拡大については、今後ぜひ検討したい。
- ・ Work(作品)でなく physical な単位に付与するということか？
認識の通りである。
- ・ 文書館も適用可能か？
適用可能である。
- ・ 博物館ではどのような番号が相当するか？
一点ごとの所蔵資料を対象とした管理台帳のようなものがあるはずなので、その管理番号が使えるのではないか。
- ・ 博物館等の管理番号では、漢字等を使用している場合もある。使用可能な文字種の調整やサポートのため、RAは不要でもIAが必要ではないか？
指摘の通りである。漢字圏に対するサポート体制については検討する。

3) NWIP 投票について(2012年10月以降変更) 資料3(事務局作成)参照 登録画面(内容)の主な変更点として、賛成・反対のいずれを投票する場合でも妥当性の根拠が要求されるようになった点が事務局から報告された。なお、既にISRC(国際標準レコーディングコード)については、当該画面で投票済みである。

4) 2014年 ISO/TC46 ワシントン総会について 資料4参照 菅野委員長より、現時点での概要説明があった。本総会の"Items for future work"において、国際図書館資料識別子(上記2)参照)について新規提案する予定である。なお、事務局の予算として参加費(1名分)が確保できたため、参加希望者はメーリングリストにて連絡すること。申込期限が迫っているため、早期に申し出ていただきたい。

5) その他

ISNI データベース<<http://isni.oclc.nl/>>について 資料5参照

ISNI データベースの運用状況について報告があった。規定が変更され、現

在の運用が当初の想定と大きく異なるため、CISAC(著作権協会国際連合)ではデータの提供を保留している。主な変更点は以下の通り。

- ・ 実名とペンネームそれぞれに識別子が付与される想定であったが、規定が変更され、現在は同一識別子の元に登録されている。
- ・ 生没年等の当初表示されない想定だった情報までが公開(画面表示)されている。
- ・ データの信頼性を担保するため、ダブルチェックを実施する想定であったが、採用しないこととなった。
- ・ 一度データベースに登録されると削除できない。
- ・ 名称一件ごとに登録料(使用料)が発生する。当初、立ち上げの時期に登録する場合は無料のはずであった。なお、料金は未定である。

具体的な運用の検討体制が整備されていない点が問題である。規定改定によるISOへの反映状況については未確認である。

ISNI...ISO 27729:2012 International Standard Name Identifier. 創作者等の名称に関する国際標準識別子。ISNI国際機関は、2010年12月にロンドンに拠点を置く非営利団体として公式に発足。世界複写権機構(IFRRO)やProQuest、OCLC、英国図書館(BL)、フランス国立図書館(BNF)等から構成されている。

本日の配布資料について

- ・ 事務局が共有フォルダに登録しておく。
- ・ 資料5のISNI登録画面は、全データを表示させた画面を事務局に提出する(追川委員)。